

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	東京都
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	練馬区立開進第三小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	115	126	119	110	122	102		694	24
児童数	3	4	3	3	4	3		27	

研究の概要

1. 研究主題

子どもの学びをみとり、さらに力を伸ばす指導の工夫

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>課題選択学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年生 算数(課題選択能力を向上させるため) ・4年生 社会(個に応じた指導を通して学習力を向上させるため) ・5年生 算数(自己評価能力を向上育成するため) ・5年生 国語(基礎・基本の確実な定着を図るため) ・6年生 算数(選択能力、自己評価能力を育成するため) ・6年生 国語(基礎・基本の確実な定着を図るため) <p>TTによる指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生 算数(基礎・基本をくり返し学習し、内容の確実な定着を図るため) ・2年生 算数(基礎・基本をくり返し学習し、内容の確実な定着を図るため) ・3年生 算数(子どもの理解度に差が出やすい学年であるため) <p>少人数学習集団での指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生 算数(基礎・基本の確実な定着を図るため) <p>研究主題を受け、職員全員が個人テーマを立て、個人研究を実施。 外部講師の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1、2年生 生活科(一人ひとりの思いや願い、学習課題の追究、実現に応えるため)

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ</p> <p>子どもの学びをみとり、さらに力を伸ばす指導の工夫</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・”子どもの学びをみとり”とは評価のことである。子どもの学力の評価を生かした学習指導の工夫ができれば確かな学力の向上につながるのではないか。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価を生かした指導の改善のために評価基準を作成した。作成の手順は練馬区教育委員会で作成した「指導計画と評価規準」を参考にし、本校としての各教科等のAとB基準を考え、本校の「年間指導計画」に基づき、単元の評価基準を作成して、その中に各学年の各教科ごとの評価の工夫についても位置づけた。(A版230ページ) ・発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のために課題別選択学習を取り入れ、教材開発を行った。開発した教材は以下の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> 4年生「わり算のひっ算」 5年生「小数と整数の計算」「小数と小数の計算」 6年生「比べ方を考えよう」「分数のかけ算・わり算」 ・指導方法、指導体制の工夫改善としては5、6年で教科担任制(実施期間
--------	---

	<p>を限定) 3年で少人数学習集団での指導を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 5年生 社会、理科、道徳・家庭科 11月21日～12月6日の期間で8時間ずつ 6年生 国語、算数、家庭科 11月12日～11月22日の期間で7時間ずつ * 3年生「かけ算のひっ算」 1クラスを担当と2人のTTの計3人で指導 <ul style="list-style-type: none"> ・課題選択別学習、教科担任制、少人数集団による学習の際の教材をファイリングし、次年度以降に生かせるようにしてきた。 ・国語、算数の「読・書・算」の定着と向上をねらいとした朝の15分学習(ぐんぐんタイム)を2年前より継続してしている。 ・ぐんぐんタイムの成果を確かめるために学期に1回ずつ計3回、漢字と計算の評価テストを実施し、習熟度別指導を行うなど、次の指導へと生かしてきた。 ・ぐんぐんタイムの年間計画作りを行い、次年度のぐんぐんタイムがさらに効果をあげるようにした。 ・平成14年度の年間指導計画を評価し、改善していく。特に来年度に向けての申し送り事項を各学年で整理し、プリントにまとめる
--	---

平成15年度	<p>テーマ 子どもの学びをみとり、さらに力を伸ばす学習指導の工夫</p> <p>仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科等において評価基準に基づき適切に評価し、効果的な指導(授業力)をしていけば子どもの自己学習の能力(学習力)が向上し、確かな学力の向上が図れるのではないか。 <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のために課題別選択学習の教材開発を推進する。特に平成14年度は算数科に偏りがちであったので、他の教科での教材開発を進める。 ・各教科等における子どもの自己学習の能力(学習力)に関する指導内容を明確にし、その指導の在り方を追究する。 ・各教科等において本校が作成した評価基準を活用し、各単元や学習ごとに適切な評価と指導の一体化を図っていく。 ・各学級、学年において評価補助簿の工夫を行っていく。 ・教師による評価だけでなく、子どもたちによる相互評価や自己評価の有効な方法を探っていく。 ・習熟度別学習においては1,2年生での実施も考え、算数科と国語科において取り組んでいく。 ・少人数集団による学習では限られた教師の人数の中でどのような取組ができるか、指導体制づくりや運営等について実践を通して探っていく。 ・学級内の少人数学習集団による学習ではT2の見取りと計画について研究を進める。
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 子どもの学びをみとり、さらに力を伸ばす学習指導の工夫</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成15年度までに行ってきた学習指導の工夫や評価方法の工夫を生かし、子ども一人ひとりの学力を把握し、教師一人および学年の授業力が向上すれば子どもの学力の向上につながるのではないか。 <p>研究の内容・方法</p> <p>子どもの学習力を伸ばす指導の工夫を通して、学習形態を教育課程の位置づけ、修正を図る。</p> <p>TT 少人数の指導 習熟度別の指導 課題別の指導</p> <p>教科担任制の指導 等</p> <p>評価基準の実践を通しての見直しをする</p>
--------	---

(3) 研究推進体制

- ・研究推進委員会（研究主幹、各学年及び専科より1名以上で構成）
- ・理論部会として、学習力部会、授業力部会、支援力部会の3部会を設置。
- ・教科部会及び学年部会を設置し、授業の検討部会を設置。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

学習力

- ・学習の振り返りが情意的なものから自分の学習状況を見つめる目が育ちつつある。
- ・友達から学ぶ姿勢が出てきている。

授業力

- ・授業の基本として、授業の発問、板書を意識することが多くなった。
- ・1時間の授業を大切にす 授業を振り返り、改善に生かす姿勢が育っている。
- ・評価基準A Bを作成したことで、子ども一人一人の学習に合わせて、「こうなっ てほしい」「こう変容した」という評価をするようになった。
- ・3つの力を関連させて授業を構成するようになった。

支援力

- ・校内にある教具、校具の整備が整いつつある。
- ・地域の協力者を通して、評価をしてもらったり、指導計画を見直したりして授 業改善に生かそうとしている。

2. 今後の課題

- ・子どもがもっているエネルギーを掘りおこすやる気、子どもの根底にある学習 意欲をさぐる手だてを探っていく。
- ・評価基準をもとにしたみとり方の充実を今後も図っていき、教師の評価力をつ ける。
- ・学習環境に対応したソフトの充実を図る。
- ・年間計画に特色のある指導の位置づけを行う。

学力等把握のための学校としての取組

- ・練馬区学力向上委員会の学力調査に協力するとともに、同研究発表会を本校で 実施した。
- ・漢字と計算の評価テストを行い（年3回）次への指導として生かした。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・平成14年度に作成した評価基準や中間報告書を区内の学校に配布した。
- ・平成15年度には10月30日（木）に研究発表会を行い、成果を広げた。
- ・平成16年度は、学年単位での習熟度、課題別、少人数、TTなどの取り組み を年6回行い、その成果を集録などにまとめ区内に広げる。
- ・学校通信や学校公開、あるいは保護者会で家庭、地域社会に成果を伝える。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無